

ばれっと

2009
9月
No.121

■ すぽっとらいと

杜の都を本の都にする会

誰もが心に残る一冊と出会えるように…

■ アラカルト

サポセン開館10周年記念特集⑤

- 今月のサポ本
- お知らせ
- イベント紹介

10周年記念サポセンアルバム

Album No.6



新サポセン開館式（2006年8月31日）

いよいよオープン！ 新サポセンのお披露目です。

1ヶ月間の休館と引っ越し作業を経て、8月31日に新サポセン開館式が開催されました。

新しいサポセンは、地上7階地下1階のお洒落な建物。今までのサポセンでのノウハウにプラスして、新しいサービスを提供できるよう引っ越しと同時進行で研修も行ってきました。

これから、新しいサポセンの歴史が始まります。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

誰もが心に残る一冊と出会えるように… 杜の都を本の都にする会

2009年6月。仙台の街で、本にまつわるイベントとして『Book! Book! Sendai 2009』が開催されました。仕掛け人は、「杜の都を本の都にする会」です。本を読むだけでなく、手製本をつくったり、演劇で表現したりと、さまざまな本の楽しみ方を提案する催し物を実施しました。本の魅力や奥深さを多方面から伝えていきます。今回は、代表の武田こうじさんにお話を伺いました。



●本の魅力を伝えたい

「杜の都を本の都にする会」が誕生したのは、昨年6月のこと。メンバーは詩人、編集者、古本屋、書店員など本を書いたり、つくったり、販売に携わる人など実に多彩な顔ぶれです。

会を立ち上げたきっかけは、東京上野で始まった本をテーマとしたまちづくりイベントでした。同じような取り組みが全国各地で行われ、メディアからも注目されるようになってきました。それを見聞きした武田さんが、「仙台でもやってみたい」と周りの人たちに声がけをしたのが始まりです。

集まった10人のメンバーたちは何回も話し合いを重ね、仙台の街が本との出会いであふれる街、本好きな人が増え、本を通じて言葉を大切に人が集う街になるように、もっと本の魅力を伝えようと活動を開始しました。

立ち上げ当初は、活動の趣旨を伝えるのが大変だったといいます。仙台では、図書館が各区に整備されていますし、本屋に行っても大勢の人が集まっています。また、子ども文庫の活動やお母さんの読み聞かせが盛んだったり、既に本に関わる活動や仕事をしている方に、「今の仙台には本の文化が無い」という意味だと誤解されてしまうこともあったようです。

●『Book! Book! Sendai』を仕掛ける

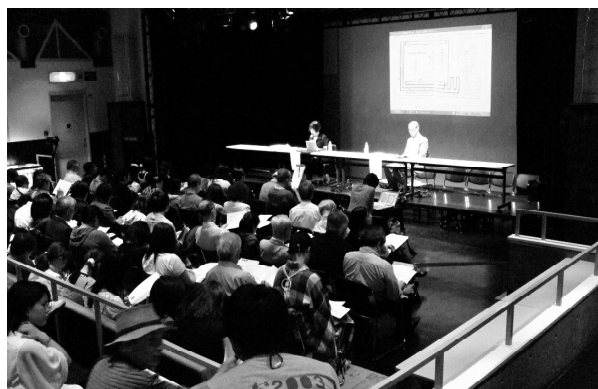
そこでまずは、自分たちの思いを伝えるイベントをやってみようと、昨年10月から11月にかけて、『Book! Book! Sendai～スタートイベント古本市～』と銘打った企画を実施しました。そこでは古本市やリーディングを実施し、本との出会いの場づくりを行いました。初めてのイベントでしたがラジオに出演したり、複数の新聞に記事が載

るなど注目を集めました。

会ではイベントをする際に、いつも気をつけていることがあります。それは、本の魅力の伝え方です。「単に仙台が舞台ということや、仙台で人気というだけでアピールしないということ。例えば仙台にゆかりがある作家さんと呼んでイベントをすれば、注目度も高く、人もたくさん集まりますが、それでは、出版記念のイベントなどとなんら変わりありません。それは私たちが考える『本の都』とは言えないと思うのです。ですからイベントの集客だけを基準にせずに、仙台を本と出会う街にしたいという初めの目的を見失わないよう活動していくようにしています」

武田さんたちは、常に活動の原点を確認し、メンバーと合意形成をしながら活動を進めてきました。

このように活動をしていくうちに、市民活動として立ち上げるのであれば、市民活動支援施設を有効利用すべきだという意見が出て、サポセンを使うようになりました。頻繁にサポセンを訪れることで、市民活動についての情報を得られるようになっていったそうです。サポセンの貸室を使って会議をしたり、団体の連絡先としてレターケースを借りたり…。初めは、印刷機があること



▲ センダイボンパクの様子

団体紹介

杜の都を本の都にする会

本の魅力、読書の大切さを考え、伝えていくことを目的に、仙台の本好きなメンバー10人が集まって、2008年6月から活動している。

街のいろいろなところで本と出合えるように、イベント『Book! Book! Sendai』の開催、サイトの運営、フリーペーパーの発行などを行っている。



▼
一箱古本市の様子

■ 設立 2008年6月

■ 連絡先

〒980-0811

仙台市青葉区一番町4-1-3

仙台市市民活動サポートセンター内

レターケースNo. 52

TEL 080-6039-8581

FAX 022-716-5336 (火星の庭)

メール info@bookbooksendai.com

も知らなかったの、スタッフに一つひとつ使い方を聞きながら覚えていきました。

「実はサポセンに来るまでは、市民活動のことはあまり知らなかったんです。本当にカルチャーショックだったのが、仙台には、自分たちのように市民活動をやっている団体がこんなにあるんだということでした。サポセンを利用して活動を進めていくうちに、そんな団体の仲間入りをして、一緒に市民活動してるんだぞ！という意識が出てきました」と武田さん。

● 「本の都」へ向かって

そして、今年の6月にはサポセンの市民活動シアターなどを使用して1ヶ月に渡り開催された「Book! Book! Sendai 2009」を成功させるまでになったのです。

これは市民活動シアター活性化事業「サポセン・シアターを3倍面白くする企画」として行われ、「仙台北の博覧会 センダイボンパク」や太宰治誕生100周年を記念して、ピアノの演奏を交えた短篇の一人語りが行われ好評を博しました。

あわせて、サンモール一番町商店街を会場に市民が一箱の古本屋の店主になって店を開き、自分の蔵書を次の読者に手渡しする「一箱古本市」も開催。いろいろなところで本を介しての交流が生まれました。

「本の活動には無数の広がりや可能性があります。そして『Book! Book! Sendai』などのイベントを企画することで、心に残る本に出会う機会を提供したいと思っています。また、本に出会った時の感動や魅力を伝えるため、別な仕掛けと何かにつなげていくかは、今後の課題であり、テーマになるでしょうね。そこに仙台の市民が創った『本の都』の姿があるのだと思います」と、武田さんは団体としてのこれからの方向性を見据えて語ってくださいました。



取材を終えて…

団体を立ち上げて1年で、大きな注目を集めている「杜の都を本の都にする会」の活動。その実行力と、市民活動に対する意欲や熱意には、私も負けていられないと思いました。やはり活動に対する想いは市民活動をしていくうえでの重要な原動力ですね。

(担当 高橋 陽佑)

サポセンの ココが使える！

■活動の拠点として サポセンの機能を フル活用

- ①貸室：仕事をしているメンバーが、仕事帰りに街中で集まる時、立地の面でも、開館時間の面でも使いやすい。
- ②レターケース：外部からの団体宛での連絡先として活用している。また、サポセンを連絡先にしたことで、市民活動をしている方々の信頼が得られた。
- ③団体情報ファイル：1階にあるチラシラックや情報コーナーには驚いた。他団体の情報を集めるのに大変役にたった。

■サポセンは団体のよきアドバイザーとして

市民活動についてもっと知りたい、勉強したいと思っている。施設のハードを利用するだけでなく、情報や相談などのソフトの部分で活用していきたい。

サポセン 10周年記念特集⑤

◆サポセンは、おかげさまで2009年6月に10周年を迎えました。
このコーナーでは、7月4日に開催した10周年記念シンポジウムの模様をダイジェストで、ご報告します。詳しい内容については、10周年記念誌に掲載する予定です。

まち

こんな仙台に住みたいな ～まちを育む市民活動とコミュニティ～

1999年6月30日に全国初の公設民営の市民活動支援センターとして開館したサポートセンター。10周年をひとつの節目として、これからの仙台の市民活動について皆さんと一緒に考えたいと、10周年記念シンポジウムを、記念講演、パネルディスカッション、交流会という三部構成で開催しました。今回は、記念講演とパネルディスカッションの模様をダイジェストで報告します。

記念講演 13:30～15:00

えんどう

延藤安弘さん

(特活) まちの縁側育くみ隊 代表理事

第1部は、住民主体のまちづくり活動を実践している延藤安弘さんを講師にお迎えしました。

全国各地でのまちづくりの現場での様子が、2台のスクリーンで次々と映し出され、会場となった市民活動シアターはく幻燈会>会場へと早変わり。

今回は、その一部を名調子そのままにレポートします。

●「ヒト・モノ・コト」がゆるやかにつながる

市民活動で大事なことはいっぱいあるかと思えますけど、ひとつ大事なのは子どもの視点から発想しようということです。わけあって我々の心も頭もなんとなく固うなっておりますけど、「こんな街に住みたいな」子どもの視点から街を育むことが大事です。

2番目に大事だと思えますのは「ヒト・モノ・コト」がゆるやかにつながる、新しい絆をたゆまぬ状況の中で生み出していくのが市民活動ではないかと思っています。7年前名古屋で、古い歯医者さんの空間をお借りして、まちの「縁側MOMO」を始めました。現代では無くなってしまった縁側思想を、もう一度地域社会に、他世代交流の場として営んでみようということです。まちの縁側は、単に空いている地域資源を活用するということに意味があるわけではございません。縁側の持っているつなぎやゆるやかな世界を次から次へつなぎ続けていく。「ヒト・モノ・コト」による共生社会をじわじわと、ゆっくりと楽しみながら広げていこう。これは、誰でもその気になればやれるやり方、市民活動ではなかろうかと思えるわけでございます。

●ワクワク・アンド・リーズナブル

楽しみながら地域の宝物を探してそれに磨きをかけながら、自分たちの街は自分たちで守り育もう、この志と技を高め続けよう。これは田舎であれ都市であれ、共通した市民活動の大事な視点ではないかと思っています。

私は10年前、高知県赤岡町という人口約3,600

人という小さな町、人は減るは商売はあがったりの元気をなくしている住民のところへ呼ばれていきました。その時、住民の方に申し上げました。

「住民参加のまちづくり、大事なことはいっぱいあるけど、一番大事なのは想像力や。想像力っちゃうのは難しい話やない。もうあかんと思うのも想像力、うちのまちはまだまだいけると思うのも想像力や。どっちの想像力にけるんや」と。赤岡の住民の方々は、「まだまだいけるにける」と言いました。そこで、「それやったら街の宝物探しからやってみよう！」ということになりました。提案する心は、市民活動のみずみずしいエネルギーでございます。



▲延藤安弘さん



▲幻燈会の様子

●活動を長持ちさせる

30年ほど前、京都の不特定市民に子どもの視点から街をつくろうと呼びかけました。対立やトラブルが山ほどあるなかで、3年半かけてみんなでコーポラティブ住宅ユーコートを作りました。以降30年近い間、自分たちで自分たちの住みよいまちを育む。コミュニティのいざこざを、コミュニティを発展させていくエネルギーにしたてていく。そんなしなやかな発想が皆の中に浸透していきました。市民は周りの空間、まちと共に育ちあう。人もまちも子どもも環境も共に育ちあう。

住民参加の「まち育て」は人づくり、人育てそのものではなかろうかとも思えるのであります。

延藤安弘さんプロフィール

1940年大阪生まれ、北海道大学工学部建築工学科卒業、京都大学大学院修了。熊本大学、千葉大学教授を経て、2003年より（特活）まちの縁側育くみ隊・代表理事。2005年より愛知産業大学大学院造形研究科教授。工学博士。京都のコーポラティブ住宅ユーコート、神戸の真野地区まちづくり等、全国各地の住民主体のまち育てにかかわっている。

パネルディスカッション 15:20~17:10

パネリスト

中村祥子さん（特活）グループゆう 代表理事
立岡学さん（特活）ワンファミリー仙台 理事長
にしおおたちめ
西大立目祥子さん まち遺産ネット仙台 代表

コメンテーター

延藤安弘さん（特活）まちの縁側育くみ隊 代表理事

コーディネーター

加藤哲夫さん（特活）せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事

第2部は、仙台の市民活動団体のリーダーとして活躍する3名の方々をお迎えし、パネルディスカッションを開催しました。

サポセンとの関わりやそれぞれの活動について紹介していただくとともに、「こんなまちにすみたいな」というテーマのもと、まちを育む市民活動とコミュニティに焦点を絞りながら、お話ししていただきました。

加藤：今日のパネリストの皆さんの活動のように、地域の課題について、具体的な担い手として仕事をされている市民活動団体があり、仙台の市民活動はこの十数年で力がつき、点が線になってきたと思います。次は、これを面にしていくにはどうしたらいいんだろうということです。

団体同士、あるいは地域や行政との関わりの中で、どのような取り組みをされているのかお話しください。

西大立目：私たちは歴史的な建物などまち遺産の保存や活用を目的に活動しています。その中で感じてきたのは、歴史的建物も、その周辺の地域の人たちと連携しないと保存できないということです。

昨年11月から、仙台市若林区の薬師堂で手作り市を始めました。ここは、仙台のまちができるはるか昔、700年代に陸奥国分寺が出来た場所です。もう一度、まちの賑わいを作り出そうと始めたことですが、地域でお話しをうかがっていくと、いろいろな課題があることがわかってきました。この地域は地下鉄工事が始まったため、お店や住宅の移転が始まり、高齢化が進んでいる地域でもあります。高齢者は、車を持っていないと買い物に行けずに、本当に生活に困っているということもわかってきたのです。

そこで、初めは手作り市ではハンドメイドのものを売っていかうと考えていましたが、農産物や

農産加工品も販売するようにしました。手作り市を始めて半年経ったくらいからとても定着して、おばあちゃん、おじいちゃん、杖をついたような方たちがどんどんやってきて、食べ物は全て完売します。

地域地域で課題があるなと感じました。そして、「この空間はいい。大事だ」五感を使って、地元の人たちに認識してもらうような場面を積み重ねていかなければと感じております。

立岡：私たちは路上生活者の自立支援の活動をしていますが、第2種社会福祉事業である無料低額宿泊所とシェルター・一時避難所を運営しています。自立を望んだ人がアパートに入り生活保護を受けた上で、就職活動をし再出発するための施設です。地域の人たちからすると、「よくわけわかんない人たちが出入りするんだよね」という不安があるのは事実かなと思います。

路上生活者や派遣切りにあって住居を失った人たちは、偏見をもって見られてしまうとこころがあります。



▲パネルディスカッションの様子

裏切られてしまうこともあるけど、「信じるよ」と言っているうちに、ワンファミリーを新しい家族だと思い「じゃあ頑張らなくちゃ」と自立のステップを踏んでいくのだと思います。

現在、施設の周辺の清掃を毎週水曜日2時間行っています。あえて町内会長さんたちには「清掃していますよ」とは言いません。「誰が清掃してるの？ワンファミリーの人たちなんだって」という声があがるまで、地道に続けていきたいと思っています。

中村：高齢者や障がい者など、誰かの支援が必要な人たちと関わっているときに、その中でも差別があると感じます。私たちが対等な一人の市民として、どんな市民でも発言していい社会にしようという時に、市民レベルで差別があることは、やはり考えなければいけません。

私たちは活動のひとつとして、発達障害の人たちの仕事場となる小さな喫茶店を始めました。障がいを持っている人たちの日常と接点を持ってもらうことで、障がい者ではなく、〇〇さん、〇〇くんという、ご自身の知り合いになってもらうことが一番です。支援してもらわなければ困るとか、差別しちゃういけないとかではなく、そのままとして理解して、だけど排除しないでくれればそれでいいんです。まず、そういった場を作ること、地域社会に働きかけています。

延藤：地域社会とのつながりを、市民活動はどう開いていくかという視点で、パネリストの皆さんの話をうかがい、3つのキーワードが見えてきました。

ひとつは「気づきを促し、五感をフル動員して地域のかげがえのない価値を分かちあおう」地域

社会のなかで、「何をめざすんや」という価値の発見や分かち合いが大事だと思います。

そして、二つ目は「残念な排他的言葉や振る舞いを控えて、縁が輪をつむごう」互いに立場は違っても、縁が輪をつむぎ、ゆるやかな関係づくりをしていこうということです。

最後に「信頼をつむぐことは、人と人との言葉の交わしあいから」あらゆる領域で、言葉のゆるやかなつむぎ合いの中から信頼しあう関係、市民と行政の関係づくりも同じような視点やものの見方が大事だと思います。3つのキーワードの先頭の文字を取ってみますと、「きざし」というもうひとつのキーワードが見えてきました。

「きざしを分かち合おう」市民活動というのは、可能的世界のデザインであり、そのきざしを感じあって、分かち合いながら実践をたゆまず、楽しみ続けるものではないでしょうかと思います。

加藤：団体の活動というのは、どうしても個別化し専門化し、先鋭化しがちです。また、地域もいろいろな場面で縦割りになっている場合があります。私たちの側から、例えばテーマは「路上生活者の地域での暮らし」にして、町内会長さん、民生委員さんなど、さまざまな方に出てきていただいて、一緒に考える場を設ける。簡単ではないと思いますが、行政や社会福祉協議会など、地域と上手につながる立場の人たちと一緒に、地域課題のための場をつくっていくことが、これから、線になった市民活動を面にしていくための、大きなヒントになるのではないかと思います。

経験をみんなに伝え、楽しみ、味わうというようなことを共有すると、仙台のまちがますます豊かになっていくのではないのでしょうか。

(担当 小松 州子)



『人と縁をはぐくむまち育て
まちづくりをアートする』
著者:延藤 安弘
発行:萌文社
定価:2,100円(税込)

■この本は
「E まちづくり」にあります。

(担当 葛西 淳子)

サポセン十周年記念シンポジウムでご講演いただきました延藤安弘さんの著書をご紹介します。

かつての日本には、町の家にも田舎の家にも縁側があり、ひだまりの縁側でお茶を飲みながらのおしゃべりするひと時は、ご近所さんの大切なコミュニケーションの場でした。この頃の住宅ではあまり見かけない風景です。

この本には、著者がまわりのご縁を育みながら繰り広げてきた「まちの縁側づくり」の実践活動と、「幻燈念」という表現方法を使ってまちづくりを進めてきた事例。また、まちづくりの種を蒔き、その種がどのように育ち花咲いてきたかという現場からの報告事例が数多く示されています。

まちづくりの活動に興味のある方はもちろん、高齢者と子ども、生活者と専門家、市民と行政とを結びたいと考えている方々も一読の価値がありそうです。

オススメ
今月のサポ本
『人と縁をはぐくむまち育て
まちづくりをアートする』

9月の イベント紹介

■ サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
 ■ 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
 ■ 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

●貸室での催し物

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
9月2日(水) 16日(水) 14:00~18:00	女性の為のカウンセリングルームです。心の声に耳を傾けてみませんか？ まずはご連絡ください。(時間50分間)	研修室1	初回のみ無料 2回目~1,000円 (事前申込必要)	この会 携帯:090-9635-6708 (栗野千賀)
9月2日(水) 14:00~16:30	不登校・ひきこもりに対する動物介在活動の計画	セミナーホール	無料 (事前申込必要)	NPO法人 エーキューブ 携帯:080-5224-6758 (エーキューブ事務局)
9月5日(土) 14:00~17:00	子どもの非行や問題行動に親としてどう向き合えばいいのか？ 一緒に分かち合いませんか？	研修室3	500円 (事前申込不要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 携帯:080-1838-7464 (星野はるか)
9月6日(日) 14:00~17:00	ぼくらの課外授業vol.3 -Living Together in SENDAI- Show, Reading, and more...	市民活動シアター	1ドリンク500円 (事前申込不要)	東北HIVコミュニケーションズ、やろっこ メール:thcgv@yahoo.co.jp Fax:022-268-4042【No.69】
9月7日(月)~ 8日(火)~ 10:00~12:00	認知症予防を目指す「脳トレ塾」 月曜コース・火曜コース 30分間で1対1の対話と学習	研修室2	2,000円(月4回) (事前申込必要)	NPO法人 日本脳トレーニング協会 携帯:080-1810-0307 Fax:022-373-1468 (佐藤利通)

お知らせ ●○●

9月の出前サポセン決定！

- 日 時：2009年9月19日(土)
10:00~16:00
- 場 所：仙台国際センター

“せんだい地球フェスタ2009”に初参加！

サポセンの主なサービスをパッケージにし、サポセンの紹介だけでなく、地域の活動団体の情報の紹介も行います。

出前サポセンとは？

平成19年度から、サポセンの機能紹介や地域で活動する団体さん同士のネットワーク構築をお手伝いするために、各地域にお邪魔しております。

●今年度の予定●

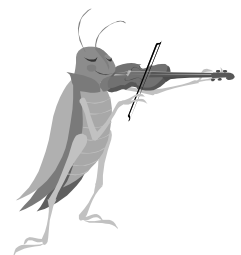
- 9/19(土) 国際センター
- 10/17(土) 泉区将監市民センター
- 10/31(土)~11/1(日)
太白区中央市民センター

ポスター掲示コーナー

リニューアルしました！

今まで5階奥の壁に貼ってあったポスターコーナーを移動しました。5階交流サロン手前にまとめて掲示して、より見やすくなりました。

イベントの告知などにぜひご利用ください。ポスターは、1階窓口にて受付しております。



主催イベントのお知らせ



<申込み> TEL 022-212-3010

日時	イベント内容	会場	料金
8月5日(水) ～ 11月3日(火)	○エイブルアート展「アートワークショップ作品発表」 さまざまな技法を用いて描かれた、カラフルな作品の展示を行います。(作品提供:アフタースクールのびのびクラブ)	情報サロン (1F)	無料 (事前申込不要)
8月29日(土) 13:00～17:00 30日(日) 13:00～17:00	●サポセン・シアターを3倍面白くする企画参加プログラム 「中南米音楽でバリアフリー」 ＝作ってならして、みんなで楽しく、歌っておどる＝ 中南米音楽の楽器・サンボニーヤ作りや、ワークショップ、音楽ライブなどを開催します。主催:(特活)博英舎・こころや 問合せ先 TEL 022-728-8343	市民活動 シアター (B1F)	土日通し券1,000円 [ワークショップ 参加の場合は 200円加算] (事前申込必要)
9月26日(土) 14:30～16:00	○NPOいろは塾 NPOの基礎について、90分で分かりやすく学びます。	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)
9月29日(火) 19:00～21:00	●ステップアップ講座 NPOが活動を展開していくには、団体のミッションや活動を伝えていくことが不可欠。想いをわかりやすい形・表現で発信し、インパクトのある広報について学ぶ講座を開催します。	市民活動 シアター (B1F)	1,000円 (事前申込必要)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

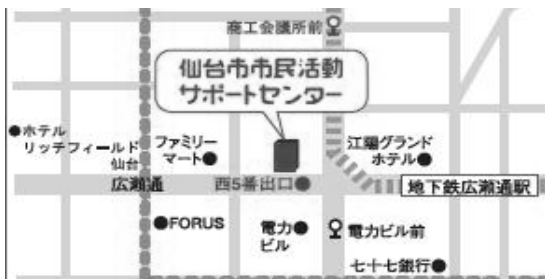
<申込み・問合せ> TEL 022-217-3983
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

日時	イベント内容	会場	料金
9月12日(土) 10:00～18:00	◆専門相談 料理、裁縫などの家事や子育ての経験を、社会参加につなげてみませんか?(先着5名、相談時間1時間程度) 専門相談員:知的障害者就労支援事業施設まどか荒浜 施設長 中村 正利さん	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)
9月26日(土) 10:00～18:00	◆セカンドライフ相談 「経済面」「健康」「生きがい」などの視点で、セカンドライフについてアドバイスします。 相談員:シニア元気笑学校 校長 渡辺 源治さん	研修室2 (3F)	500円 (事前申込必要)

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停]

電力ビル前、商工会議所前、広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ

開館時間

- 平日 午前9時～午後10時
- 日曜・祝日 午前9時～午後6時

休館日のお知らせ(施設点検等のため)

8/26 9/30

編集後記

◆立秋を過ぎてから、やっと夏らしい陽気になりましたね。でも、秋はもうすぐそこまで…。季節の移り変わりなので、体調管理には注意しましょう。(自戒を込めて)(内川)
◆10周年記念シンポジウムには、たくさんの皆さんにご参加いただきありがとうございました。10年の重みを感じずにはいられませんが、“まだまだいける”の想像力で今後もいきます!(小松)

発行:仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2009年8月25日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:内川奈津子 小松州子 葛西淳子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2007年4月1日～2010年3月31日]